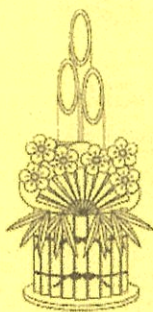


令和7年1月7日発行

～友和地区コミュニティ推進協議会の抜本的な見直しを終えて～

—第5報—



新年おめでとうございます

旧年中は、皆様のご理解とご協力のもと、コミュ協の抜本的な見直しを計画どおり実施することができました。ありがとうございました。

見直しにあたりましては、コミュ協便りで考え方などを発信しつつ、自治会等及び関連団体の代表の方々への説明会・意見交換会を合わせて実施し、その結果として昨年11月24日開催の第2回臨時総会において新しい規約の承認も得ることができました。

この新規約は、本年5月に開催予定の定例総会終了と同時に発効します。そして会の名称も新たに「友和地区自治会等連絡協議会」となり、会長も叶から若い人に交代します。

1 新規約に盛り込み整理した主な事項及び考え方

- ① 共助など実効性のある活動が期待できるのは単位自治会・町内会である
- ② 会員・会の構成を明確にする
- ③ 様々な分野での変化が早いことも踏まえ、役員の思い切った若返りを図る
- ④ 新組織の名称は「友和地区自治会等連絡協議会」とする
- ⑤ 新組織と自治会等及び関連団体等は対等の立場であり、新組織は主として調整役
- ⑥ 新組織は地域の将来を見据えた研究・活動に取り組む
- ⑦ その他
 - ： 規約は表現に柔軟性を持たせた大まかな記述とする
 - ： 協働の視点から意見交換会等の開催を盛り込む
 - ： 役員の負担軽減を図るための庶務係を置くことができる
 - ： 規約は適宜見直す

2 当地区が抱える大きな課題と対応について

上記1③⑥の件につきましては、コミュ協便り第44号少し触れています。それは、【地域が衰えていく傾向にあることへの対応】としています。

明るい話題ではないこと及び直近のことでもないことから少し触れるだけにしていますが、当地区が抱える課題としてはとても大きな課題です。それは近い将来、当地区の人口が急激に減少していきそうにあるということです。

現在も大小さまざまな課題を抱えていると思いますが、人口が急激に減少し始めると「買い物をする店」、「体調を崩した時の受診先」など、生活を支える様々な必要不可欠のものも次第に無くなり、いわゆる負のスパイラルに陥ることになるのではないのでしょうか。

友和地区の人口及び世帯数、更に友和小学校の児童数の変化を見ると大きな特徴があります。いわゆる団塊世代の人たち、これは現在概ね75歳から80歳です。

この世代が小学生の時の友和小の児童数は約 450 名、それから 20 年も経ずして児童数は 180 名まで減少しています。

その後、バブルの時代を迎え友和地区の世帯数及び人口は移住者が多くあり概ね 3 倍まで膨れ上がりました。このため当時の児童数は 550 名まで増えています。

そして現在の児童数は玖島からの児童も含め 180 名まで減少しています。これを現在の世帯数と人口との比較で見ますと、世帯数はほとんど変わらないのですが、人口は 6,700 名から 5,100 名程度まで少なくなっています。

つまり団塊世代は残っているけど、その子供世代の多くは当地域から離れているとみることが出来ます。

問題はここにあります。高齢化にある中、当地区の団塊世代の人たちが居なくなる時（言いにくいことですが）、人口はかなり少なくなり、合わせて新たな空き家も発生することになります。現在 75 歳以上の人は約 900 人、更に 65 歳以上で見ると約 2,000 人となります。

友和地区の持続性を考えるとき、人口減少に対しては新たに移住してくる人のこと、とりわけ子育て世代の若い人のこと、移住者があっても人口が漸減していく場合のこと、中山間部にあつて有利なこと、逆に不利なことなど様々な要素を考えつつ対策を講じていくことが大切です。

今回のコミュ協の抜本的な見直しでは、対応策として以上のことも踏まえています。

上記 1 ①につきましても、このような認識のもと、コミュ便り 45 号で「自治会・町内会の運営にあたり、チョットした気配りなど」として述べさせていただきました。

3 今後の意見交換会等について

新しい組織となる「友和地区自治会等連絡協議会」は、「安全・安心で明るく持続性のあるまちづくりを推進する」ことを目的に、自治会等や関連団体、更に希望される個人の方々も含めた意見交換・情報交換会などを開催し相互理解を深めつつ協働・連携を図ってまいります。

昨年 11 月 10 日に開催した意見交換会においても、既にこの考え方から関連団体の状況を発表していただき、参加者皆さんの賛意も得たことから新たに次のように支援します。

① 友和小学校 PTA 会長 増田さんからの紹介

今年、友和小学校が創立 150 年の節目を迎えることから 11 月 15 日（日）に記念式典を行います。

- ➡ 友和地区の持続性からも意義のある節目、予算面での支援を行います。
- ➡ その他、児童の知的好奇心や想像力を高めることなどに使えるお金の支援を行います。（既定予算から）

② 河津原神楽団団長 竹内さんからの紹介

明治の始め頃には舞われており、150 年余りの伝承の歴史を持っています。現在は団員 20 名で活動しています。地元の神社の秋祭りの際に神楽の奉納を行うほか、年間 10 数か所で演じています。

- ➡ 伝統文化・芸術の継承と地域の“ふれあい”として支援します。（既定予算から）